

# 身近に潜む冬の中毒 初期対応とピットフォール



小島直樹 著 (公立昭和病院救命救急センター担当部長)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続

**Introduction** ..... p2

**1 冬の中毒** ..... p4

**2 中毒の初期対応は特殊なもの？** ..... p5

**3 中毒疾患の診断, はじめの一步** ..... p6

**4 冬の中毒の代表的疾患——生牡蠣によるノロウイルス感染** ..... p8

**5 冬の中毒の代表的疾患——フグ中毒** ..... p11

**6 冬の中毒の代表的疾患——酸化炭素 (CO) 中毒** ..... p13

▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

# Introduction

## 1 冬の中毒

- ・細菌性食中毒は夏に多く発生し，ウイルス性胃腸炎は冬に多い。
- ・ウイルス性胃腸炎のほとんどがノロウイルスである。

## 2 中毒の初期対応は特殊なもの？

- ・中毒関連疾患でも初期対応は他疾患と同様であり特別なものではない。
- ・患者を脱衣させる乾的除染だけでも80%の除染が可能といわれている。

## 3 中毒疾患の診断，はじめの一步

- ・なにはともあれ，疑わなければ始まらない。
- ・個々の特有の身体症状や，同系統の原因物質の推測，つまりトキシドームからの鑑別を進める。

## 4 冬の中毒の代表的疾患—生牡蠣によるノロウイルス感染

### ①ノロウイルスとは？

- ・感染力が非常に強く容易に感染伝播するが，過去10年間で死亡例はない。

### ②ノロウイルスによる症状

- ・24～48時間の潜伏期間がある。
- ・激しい嘔吐や下痢，胃腸炎，また，高熱を生じるが，2～3日で軽快する。

### ③ノロウイルスの診断法

- ・臨床症状や発生状況などから総合的に診断する。
- ・迅速ノロウイルス抗原検査は，保険適用，偽陰性に注意する。

### ④ノロウイルスに対する治療・予防策

- ・治療の主体は脱水補正であり，止痢剤は禁忌。
- ・加熱は85～90℃で90秒以上。消毒は次亜塩素酸ナトリウムを用いる。

## 5 冬の中毒の代表的疾患—フグ中毒

### ①フグ中毒の病態

- ・原因物質はテトロドトキシンで運動，知覚，自律神経系を障害する。

### ②フグ中毒の症状

- ・フグ中毒の死亡率は60%と高く，死亡原因は呼吸停止および循環不全である。

### ③フグ中毒に対する診療

- ・緊急初期治療として呼吸管理が重要。
- ・特殊な解毒剤はなく，多くの場合24時間以内に症状は消失する。

## 6 冬の中毒の代表的疾患—一酸化炭素(CO)中毒

### ①CO中毒の病態

- ・全身の低酸素障害が主病態である。

### ②CO中毒の症状

- ・最も現れやすい症状は頭痛およびめまい。
- ・心毒性としては，急性心筋梗塞，狭心症，不整脈が生じる。

### ③CO中毒の診断

- ・3つの視点，①CO中毒に一致する症状，②COに曝露された経過，③COHbの上昇，から総合的に診断する。
- ・動脈血液ガス分析，SpO<sub>2</sub>はあてにならない。

### ④CO中毒の治療

- ・積極的な酸素投与，補助換気を，COHbが5%以下になるまで継続する。
- ・高気圧酸素治療(HBO)療法の有効性には賛否両論ある。

### ⑤CO中毒のピットフォール

- ・間欠型一酸化炭素中毒と呼ばれる病態があり，退院後も経過観察を行う。

# 1 冬の中毒

中毒の原因には医薬品，工業製品，環境因子，感染疾患など様々なものがあるが，季節性が出やすいものといえば食中毒である。ブドウ球菌，サルモネラ菌，大腸菌などを代表とする細菌性食中毒は夏に多く発生し，ウイルス性胃腸炎は冬に多く，そのほとんどをノロウイルスが占める。2018年の厚生労働省の報告によると，ノロウイルスの食中毒発生件数は，アニサキス，カンピロバクターに続いて3番目となるが(表1)<sup>1)</sup>，患者総数となると全体の約半数を占める(図1)<sup>1)</sup>。つまり，ノロウイルスは集団発生しやすく，それゆえ社会的に大きな問題となる。ノロウイルスによる食中毒は一年を通して発生するが，低温，乾燥環境となる冬から春先にかけて著しく増加するので，冬の中毒の代表格といえる(図2)<sup>2)</sup>。

表1 2018年病因物質別発生状況

	病因物質	発生件数(件)	患者総数(人)
細菌	サルモネラ	18	640
	ブドウ球菌	26	405
	腸炎ピブリオ	22	222
	腸管出血性大腸菌	32	456
	ウェルシュ菌	32	2319
	カンピロバクター	319	1995
	その他の細菌	18	596
ウイルス	<b>ノロウイルス</b>	<b>256</b>	<b>8475</b>
	その他のウイルス	9	401
寄生虫	アニサキス	468	478
	その他の寄生虫	194	169
その他	化学物質	23	361
	植物・動物性自然毒	61	133
	その他/不明	27	632

(文献1より引用)